【議事】推 8

（1）LNG 推進系飛行実証プロジェクトの中間評価について

まず事務局の橋本係長が資料 8-1-1（評価実施要領）を説明し、小委員会の日程などを紹介した。続いて JAXA の秋元プロマネが資料 8-1-2（開発状況）を、IHI の渡辺本部長が資料 8-1-3 を、そして、松尾小委員会主査が審議の進捗状態を説明し、更に JAXA の秋元プロマネが資料 8-1-4（質問に対する回答）を説明した後、質疑応答が行われた。

松尾主査は「LNG 推進系の最終目標は第 2 段階の高圧燃焼・再生冷却方式である。第 2 段階に進む場合に第 1 段階が些か遠回りになるところから、どのようにして調和をとるべきか考えるところ」と言っていた。

澤岡：再生冷却方式を採用すると、今回の計画で開発する技術は使われなくなるのか。

松尾：ある程度迂回になっていることを危惧している。

澤岡：事業としてのことに口出しすべきでないと言われてはいるが、デルタとの価格競争となれば相手が下げてくることもあるのではないか。

松尾：小委員会でも議論はあった。心配することは心配するが、最終決断は事業者が行うと云うことである。

青江：最終的に再生冷却方式にするのは決まっている。

森尾：LNG エンジンの開発が、技術的にそれほど問題が無いということで始まったのであるが、そもそも GX の 2 段に LNG を使い意義があるのか。

IHI 渡辺：歴史的経緯の中でやってきたことであって、他のものでは絶対駄目ということはない。ここまでやってきて、GX で LNG を使うのが最も近道である。

森尾：LNG で高性能のロケットを作る話と、ビジネスの話を切り分ける必要があるのではないか。例えば、H-Ⅱの 2 段を使うのはどうなのか。

鈴木：エンジンが完成していれば開発は早くできる。

青江：単にエンジンがあるということとアベイラビリティとは違う。プロジェクトには二つの目的があり、LNG の技術習得とビジネスの支援がそれである。「支援される側が望んでいるのに、支援しないのか。」と考える。

鈴木：仰る通りと思うが、キャリブレーションが必要であろう。

松尾：望む望まないの違いは有るだろうが、欲しいというから総てというのは誤りであろう。